



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **32**

2020.2.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

2月1日 成果発表&交流会が開催されました

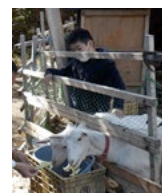
会場の信州大学工学部国際科学イノベーションセンターは広くて学校やNPOなどの展示スペースと発表とが同所で効果的に開催できました。午前・午後に分かれての成果発表と交流会は20校269名もの参加で盛会でした。



信州ESDコンソーシアム会長の宮崎教育学部長の

「ESDの主役は子どもたち、学校は持続可能な社会をめざしてもっと夢を持とう！」という開会挨拶から始まり、最初は遠く飯田市の遠山中学校からのネット通信による中継画像で遠山中、和田小、上村小の8名の児童生徒が紹介されました。以下、各学校からの成果発表の概要です(詳細は、信州ESDコンソーシアムの年次報告書に再録されます)。

山ノ内西小学校 2年生14名で、生活科でのESDを「本物に触れる活動、ヤギしろとめぐるぼくたち」と発表。ヤギの小屋作りは大変な作業で試行錯誤して完成。生まれた子ヤギの名前も真剣に話し合い、2か月後によく決定。今は母親になったしろが乱暴になってどうするかみんなで考えている。課題を考え解決していく児童の姿がみえました。ヤギとの生活の歌のビデオが楽しかったです。



山ノ内東小学校 4年生20名で4発表を。①コカリナを聞かせたい、もっと知ってもらいたいと会場にクイズを提示、②社会科チームはゴミ調べ(クリーンセンター見学で町はゴミ量多いことに驚き！家庭や地域にポスター作りで削減を呼びかけ、③新スポーツぼっちゃを楽しく、誰にでも、④駅や温泉、トイレをバリアフリーに、とそれぞれが工夫しながら調査をし、学外にも働きかけました。コカリナの合奏がすてきでした。



山ノ内南小学校 「町とつながりたい」をテーマに各学年でESDカレンダーを改変しながら実践している。6年生19名は地元気づく発見の旅から、夜間瀬川で見つけた川遊びの魅力に気づき、楽しいけど高齢になっても川に触れ合えるのかな？と疑問を発見、北信建設事務所から説明を聞き、10月の洪水も見て、それでも川を集まる場にできないか、と町の子ども議会で提案した。体験から課題をみだし、解決を考え、地域に提案する、ESD学習の姿がみえました。

高山小学校 わくわく村は地域が提供する豊かな学びの場です。すでに17年、今年も20講座が開催され子どもたちが、サバイバル飯、泥団子作り、消防士体験、ホテル学習など多彩に取り組みました。3年生は学校の高山の時間でリンゴ栽培を実践し、共選所の仕組みを見学し、しらかば学習発表会で発表しました。地域との協同の様子が良くわかりました。



ここで遠隔地の遠山で発表を聞いていた小学生のコメントをいただきました。ふるさとを良く調べているな、コカリナを初めて知りました、地元の祭りも大切にしたい、などネットを通して発表の様子は十分に伝わっていました。

山ノ内中学校 1年の志賀高原研修から観光客が減少していることを知り、地元アンケートから町紹介のパンフを作ることに。山の魅力、冬はスキーを楽しめる、自然をもっと大切に、などを考え、志賀高原を再発見してSNSで発信する、サル被害は犬の声で追払うなどを提案した。



高山中学校 2年生5名でESD総合「故郷と私」を発表。ワイン手伝いや学校林でのキノコ栽培から、地域資源の活用を考えたり、志賀高原と渋温泉散策で外国人が多い、など他地域と比較したりする中で、将来の過疎化が心配で、議会でインバウンドを提案した。地域の良さだけでなく課題を考え解決に取り組んでいた。

附属松本中学校 1年C組3名での学校紹介とESD実践。志賀高原のエコパーク学習や地元の浅間温泉をテーマに、イチ

ゴ栽培や宴会での食品ロス、地熱の利用を考えた。ESDとは「愛することができる」という思いを外に広げられれば良いのではないかと熱く発表してくれました。



遠山からの中学生のコメント 食品ロスを実感しました、地域への熱い思いを感じすごいと思いました、私たちも地域の良さを伝えたい、などの感想がありました。

安田先生のコメント ESD学習には(人やもの・こととの)出会い・発見・伝えるの3つ大切です、持続可能な社会のために積極的に行動して欲しい。

及川先生のコメント 日本は広く多様なので地域の個性・文化を体験して大事にしながら取り組む、それを活用しながら知恵をだして未来をどう創るか考えて欲しい、遠山との遠隔交流は大変良かった、各学校はもっと交流して発展してほしい。

阿部先生のコメント 国連でESDfor2030が決議された。ESDはSDGsを目的としている。長野県は気候非常事態宣言を全国に先駆けて発した、学校は地域と協力して地域資源をどう生かすか考えてESDを一層推進してほしい。

●昼休みもパネル展示の前で盛んに意見交換したり配布資料の読み込みなど皆さん熱心でした。以下午後の部。

東条小学校 3年生17名でのホタルぴっかり大作戦!の発表。いる川といない川のなぜから、川の環境調査をし、ホタルが喜ぶ水路にするために考えて実行しようとしています。ホタルの歌を歌ってくれました!

永明小学校 PSP(ピーススマイルプロジェクト)について降旗先生からの紹介。身近なもの・ことを、人とのつながり、自分ができることの3視点で学習をおこなってきた。平和活動は5年生からで6年生で2年間の成果を作文し朗読した。貞子の千羽鶴を知り、平和への願いから永明の日には忘れてはいけない5つの日を紹介し、自分達でできることを考え平和の塔の掃除を始めた、さらなる活動としてピース折り鶴やまとめの平和パンフを作り地域に広げたいと活動している。学習の視点が明快な発表でした。

附属長野小学校 4年2組16名で長野県の食文化を発表。実際に野菜作りに取り組み、病気や虫など大変なことを学んだことから郷土料理をテーマに。郷土料理百選に選ばれた長野のおやきとそばについて学習し、実際に作っておいしさを伝えたいと思った。伝統の由来や意義について体験的に学習していました。

安田先生のコメント 地方にあるものを「地宝」という、それらを教材することで感動は伝わる。皆さんも宝を胸に未来に輝いて!

中野西高校 コーヒー倶楽部有志3名で、世界では児童労働1.5億人、無くすためにはフェアトレード商品と団体がある、提携型の珈琲メーカーと協同して祭りでコーヒー販売をしたり、世界の現実をまず知ってもらうことも大事で、広く伝えていきたいと。熱心さが伝わりました。



長野西高校 1年生4名が健康と福祉をテーマに。沖縄は健康県から近年脱落、長野県の将来は?実際に健康寿命は長野は低い、東京などではワンコイン検診があり、長野でもヘルスケア広めて健康な街にしたいと。

文化学園 中高生20名で①国際キャンペーンに委員会ごとにプランをたて実行、「誰一人取り残さない」は認め合う行為、②文化祭でユネスコを紹介、まいはし持参で世界を身近に、③子ども食堂から信州つばさプロジェクト、ESD国際交流プロジェクトなどに参加、発信することで表彰された、どう活動するか=>未来の大人会議を設立!など多彩な活動で、S tおはSDGsが実感される発表でした。



NPOセンター・ユースリーチ 若者の社会課題チャレンジで長野を少しずつもっと良くする、を目標にまずは高校生の居場所を作るなどの活動の中で10月の水害では災害情報共有会議も行いました。

ESDはつながり学習、アースデイなどで若者が社会の前面に出てきた、市民教育とは課題にかかわる力であり、それは社会を変える力、ESDで持続可能な社会を作りましょう。

阿部先生のコメント 高校生の活動は社会に開かれた活動になっている、世代の自負や学びの過程(イメージの共有、学び、取り組み)を理解し、身近な課題への取り組みから持続可能な社会へ向かいましょう。

及川先生のコメント ●保護者からの感想が寄せられました、ありがとうございました。

「今日の発表はみんな自信に満ちていて堂々としていて感動しました。他校の発表も素晴らしく、南信地域校との中継でのリアルタイム交流は画期的で子どもたちにとって貴重で素晴らしい経験になったと思います。以前から学校ではESDに力を入れているということは知っていたのですが、今日の発表をみて、長野県全体でこんなにも盛んに取り組んでいたのだということを知り、驚きました。私にとっても貴重でよい経験をさせていただきました。発表を振り返り、よりよい町づくりに対して、私にもできることがたくさんあるのではないかとわかりました。「まずは自分から」という意識が強まりました。また家族でこのようなことを話し合っというと思いました。」

